



ちょっとそこまで～お散歩日和(植物編)～

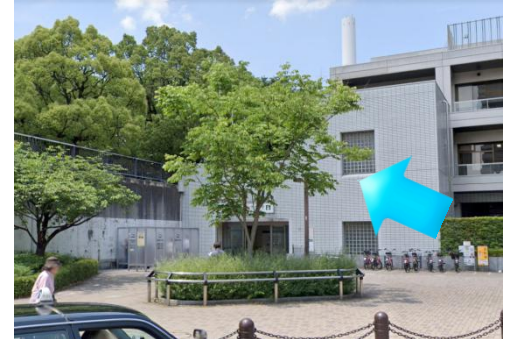


# オオモクゲンジ



光が丘駅前のタクシー乗り場のすぐ近くに、オオモクゲンジの実がたわわに実っています。とても珍しい木なので、道行く人も思わず「何て名前の木なんだろう？」と立ち止まる光景を見かけます。

オオモクゲンジとは、ムクロジの仲間で、英語名を「Golden-rain tree」と言うように、満開の時期はまるで黄色の雨が降り注ぐかのように華やかさで周囲を圧倒します。実際、この光が丘でも8月の様子はとても目立っていました。



その花が今、実を結んでいるのですが、これがまた特徴的です。まるでフウセンカズラのようで、中に、球果がきちんと2個ずつ入っています。



まるでフウセンカズラそっくり



下から見ると・・・



中を開いて見ると・・・

この木は、実生で簡単に育ちます。が、わずか10年で7mを越える大木に育ち、最終的に樹高は20mにもなってしまいますので、庭木には適さないと思います。実際、このロータリーに植栽して数年しか経っていないように思いますが、横に広がっていくので、もう既に大木然とした佇まいです。

ムクロジの漢名「木患子」と取り違え、さらに、読みも「モクカンシ」から「モクゲンジ」となったという、何とも可哀想な木でもあります。モクゲンジより葉が大きいために、オオモクゲンジとなっていますが、別名として、フクロミモクゲンジとも言います。こちらの方が特徴をうまく言い表しているように思います。



花の様子(8月)



実の様子(9月)

ところで、この実ですが、ムクロジ同様、黒く熟すととても固く、羽子板の追い羽根の重しにしても割れません。しばしば数珠にできると書かれているのを目にしますが、キリで穴を空けるのも難儀するほどです。

ということで、108回もこの作業を繰り返すのは、あまりお勧めしません。どうしてもという場合は、電動ドリルを使ってください。

私が、この木と最初に出会ったのは、小石川植物園でした。正門を入れてすぐ右側に数本並んで立っています。この植物園では、フクロミモクゲンジとの表示を採用しています。同じ東大つながりで、本郷キャンパスにもあったように記憶しています。



現在の遠景

少しだけ紙幅にゆとりがあるので、8号棟前のヤブランもご紹介します。



園芸店ではリリオペの名前でも流通しているように、ユリの仲間です。シュンランに少し似ているので、ヤブランの名前が付いたのではないかと思います。

乾燥にも湿気にも日陰にも栄養不良にも強く、しかもグランドカバーとしての役割も果たすので、大変重宝な植物です。花言葉が、「忍耐、隠された心、謙遜」というのも何となくうなずけます。しかも、当団地のヤブランは斑入りなのでとても上品な佇まいです。今ちょうど紫色の花を房状に咲かせています。今後、黒く熟した実がブドウの房のように付くことになります。